

桜丘養護学校（特別支援学校）移動博物館での成果と課題

山元 芳彦*

The results and prospects of Movil-museum in Sakuragaoka school for special needs Education

Yoshihiko YAMAMOTO*

はじめに

平成25年11月27日に、桜丘養護学校で移動博物館を開催した。移動博物館は、平成7年から始まり、毎年1, 2の市町村で開催している。特別支援学校での移動博物館事業は、平成18年から始まり、当館への来館が困難な児童・生徒のために行っているものである。

当日は体育館で開催し、動物の剥製や昆虫、植物の標本レプリカ、アンモナイトや恐竜の骨の化石、児童・生徒の理科研究記録など、5300余点を展示した。また、液体窒素を使って、バラの花やゴムボールを凍らせる「とほうもなく冷たい世界」の実験や色々な石を使って動物や昆虫、キャラクターなどを作る「石ころアート」の活動も行った。

午後からは近くの桜丘東小の6年生も参観し、展示物の見学や楽しい実験に参加してくれた。

ここでは、特別支援学校での移動博物館が更に充実するために、今回の事業の成果と課題を記載し、今後の運営等の参考とする。

1 成果

(1) 学校との事前打ち合わせ

開催6か月前となる5月の中旬から教頭と連絡をとり、期日や日程の確認及び前日の準備、後日の片付けに参加できる職員数などを相談した。この時点では、見学の日程や実験への参加人数等について、9月の職員会議を経てから詳細を検討することにした。今後は、理科担当者の了解を得て、電話での確認や実際に学校を訪問して事前打ち合わせをしていくことにした。

ア 学校での打ち合わせ

(ア) 6月5日(水)に教頭、理科担当者と1回目の話し合いをした。内容は、児童・生徒の障害の実態を聞き、実施可能な実験内容や参加見込み人数を確認した。また、会場である体育館の広さ

や出入り口等を確認をし、写真で撮影した。

(イ) 8月15日に理科担当者と第2回目の話し合いをした。内容は、体育館に展示する剥製等の確認や配置図を提案し、学校側の要望を聞いた。

学校側としては、展示物については特段の支障はないが、車いすの児童・生徒が動けるようなスペースの確保と実験の内容が説明できる簡単な資料がほしいとのことであった。そこで、配置については、できるだけ児童・生徒が参観しやすくなるように工夫し、資料については後日送付することにした。

イ 電話での打ち合わせ

電話では20回以上の打ち合わせをし、その都度参観計画や実験内容・参加人数などの資料をファクスで送信し、その資料を見ながら確認した。特に留意したことは、無理のない時間配分や実験で怪我をしないような道具の準備をすることであった。

(2) 会場・準備・設営関係

準備は、養護学校の職員30人以上に手伝っていただき、スムーズに進めることができた。設営についても学校の担当者や教頭に見てもらい、児童・生徒に支障がないかの確認をした。

(3) 当日の運営

当日は、博物館職員が各担当場所で実験や参観案内をし、児童・生徒が怪我をしないように目配りをするとともに、解説資料を配布して案内に努めた。

(4) 後片付け

学校から借用したものを元の場所に片付けたり、体育館やエレベーター、廊下などを丁寧に清掃したりした。この際、展示に使用したピンなどの取り落としがないか十分に確認し、児童・生徒の事故防止に細心の注意を払った。

2 課題

特別支援学校において移動博物館を行うに際して、考慮を要する点や課題が見えてきた。

- (1) 児童・生徒の状況によってストレッチャーが必要であるなどの行動制限があったり、認知・理解に制限があったりする場合には、学校職員と連携してより効果的な学習が行われるよう、実験や解説を担当する当館職員等がこれらの状況を十分に把握・共通理解するための事前準備が必要である。
- (2) 学校側が対応可能ならば、移動博物館の観覧に保護者も参加してもらうようにしてもよいだろう。また、更に拡張して、近隣の学校の児童・生徒や地域住民も参加できるようにして、それらの参加者と当該学校の児童・生徒の交流会を同時に実施することも考えられる。ただ、この際には、異なる環境での参加者の事故防止や当該学校の児童・生徒が多数の人がいる状況に適応できるかなど、検討すべき点が多々ある。また、広報をどうするか等難しい点がある。
- (3) 開催時期も検討が必要である。今回、11月末に体育館を使用したがる、この時期の体育館は冷え込みが強いので、児童・生徒の健康管理の面からは、もっと暖かい時期に実施するか、空調が効く会場を使用することが望ましいだろう。
- (4) 特別支援学校では送迎バスを運行することがあるので、展示物の搬入・搬出に際しては、時間調整が必須である。
- (5) 移動博物館の展示設営においては、当該学校の実情に応じて展示物を配置する必要があるが、これには教員の協力が不可欠である。設営時には、必ず当該学校の教員が参加できるような日程が組めるよう、事前の検討が必要である。

おわりに

資料搬入から会場設営、展示・実験、後片付けまで4日間の日程での移動博物館の実施だったが、移動博物館終了後に、校長から好評をいただいた。また、全児童・生徒からも喜びの感想を綴った手紙をいただいている。日頃、なかなか博物館等の施設を訪れることのできない特別支援学校の児童・生徒にとって、今回の移動博物館が知的好奇心を高揚させる一助になってもらえれば幸いである。



【動物剥製を見ている様子】



【昆虫標本を見ている様子】



【楽しい実験をしている様子】



【石ころアートで作品を作っている様子】